



郡上長良川ロータリークラブ

第46期クラブテーマ 子供たちの未来へ

会長：松森正和 副会長：藤代昇 幹事：佐藤備子

例会日：毎週水曜日 18：30~（6-9 月末 19：00~）

例会場及び事務所：白鳥町農業指導研修センター 2F

TEL：0575-82-3822 FAX：0575-82-5191

E-mail：gsrca@abelia.ocn.ne.jp 発行：クラブ会報委員会

第2155回 令和6年5月29日(水)

本日の行事 次期委員会活動計画②

2023-24 年度

松森正和会長

・次年度ロータリー財団研修セミナー開催

幹事報告

佐藤備子幹事

7月27日(土) 岐阜グランドホテル

* 地区事務所より

* 関 RC より 一泊幹事会の礼状

・ 2023-24 年度地区補助金最終報告書承認の

* 関中央 RC より親睦ゴルフ大会収支報告書

お知らせ

* 岐阜県庁より 人権便り

第2154例会報告

会長挨拶

2023-24 年度 松森正和会長

皆さん今晩は。今週ニュースでご覧になった方も見えるかと思いますが、キリンホールディングスと明治大学が共同で開発したエレキソルトというスプーンが発売されました。塩分を取らないようにそのスプーンで食べれば薄味の料理でも塩味を感じるそうです。

5 年ほど前からそのようなニュースは聞いたことがありましたが、高血圧の方が日本人には多く、世界的に見ても日本人は塩分を取りすぎているようです。

僕も 40 代の後半から高血圧の診断を受けて、薬には抵抗がありましたが、頑張ってみても下がらないので薬を飲み続けています。高血圧の人は自覚症状がないため、中々難しいですが、値段が 19800 円で、スプーンにそれだけ払うのはどうかと思います。いまから箸やお椀等どんどん発売されるそうですので、買うことはないと思いますが、どういうものが出てくるのか楽しみにはしております。今日も弁当は漬物をひと切れ残してすべて食べてしまいました。今日は以上で終わります。

外来卓話

石徹白洋品店 平野馨生里様

今日はよろしくお願ひします。私の自己紹介を最初にさせていただきます。1981 年に岐阜市芥見で生まれまして、岐阜北高校学校を出ていますが、岐阜東 RC からアメリカのオハイオ州に交換留学しておりました。今回皆様の前でお話をさせて頂くのは里帰りをした気分でありがたく思っております。高校卒業後は、慶應義塾大学総合政策学部に進みまして、卒業後はブラックジャパンという PR 会社に就職をした後、岐阜市にあるサラマンカホールという所に勤務しました。退職後にフリーランスとしてトヨタ自動車の社会貢献推進の事業の豊森なりわい塾の事務局スタッフですとか、石徹白のマイクロ水力発電事業スタッフとして働いた後、2011 年に石徹白に移住して、2012 年 5 月から石徹白洋品店という名前でお店を始めています。



石徹白に来てから 4 人の子供を授かりまして、4 人の男の子と過ごしています。石徹白は白山連邦の懐にある集落で、とても美しい所で、ここに住まわせていただくととても幸せだなと思っています。

雪が深く、石徹白に移住する前に郡上市の知り合いに「絶対にやめた方がいい。」と言われて、「本当に移住したいのなら 3 年、石徹白の冬に通って、それでも来たいと思ったら行きなさい。」と言われて、3 年別荘を借りて通って、それでも石徹白がいいと思い移住をしました。

石徹白へ私たちが移住した 2011 年は人口が 270 人くらいだったのですが、今は 200 人くらいです。その中で移住者は 40 人くらいです。U ターンで戻ってくる人が必要だと思いつつも、移住者がいないと支えられない、そんな地域になっているのかなと思っています。

石徹白洋品店自体は、お祖母さんたちに色々なお話を伺って、その中から学んだ服をベースに作っています。

私は学生時代、文化人類学をやっている、聞き書きという民族調査なんです、いろんな人に話を聞いてその地域の事を学んでいました。石徹白は歴史的にも興味深い所で、80代、90代の人に話を聞くというのも石徹白に通い始めた2007年から通っていますが、2010年頃から公民館の一つの事業として、石徹白聞き書きの会というのをやらせていただきまして、色々な方にお話を聞いて回りました。



苗取りという田植えの前の作業ですが、古い写真を見せてもらいながら話を聞いて行って、この作業の時に皆たつけを履いて法被を着て作業をしていると聞きました。

石徹白さえ子さんが16歳の時、山の作業へ出る時も化粧もして髪も巻いて、「帯の中にはコンパクトも入れていたんじゃ」とおっしゃっていて、白山信仰の人が来たりするので、神様の所に住む人としてきれいにされていたのかなと想像しながら聞いていました。「大変な事もあったけど、みんなで力を合わせて働いてきたことが、楽しかったじゃ。」という話を聞いてきました。

道刈りという白山の山の道を刈っていく時に、男の人がチェックのシャツをお揃いで着ています。これが越前シャツという名前のシャツで、前ボタンなんです、普通のカーブのある洋服のシャツではなくて、着物みたいに直線裁断をして作っていたという話を、90代のりさ子さんから聞きました。

石徹白りさ子さんというおばあさんの家にお邪魔して色々教えてもらっていますが、越前シャツを覚えていたのはりさ子さんだけで、この後の人たちは知らなかったんです。昔の服は、洋服が入る前の服なので、そういう時代を知っている人と奇跡的に会えてありがたいことだと思っています。教えてもらったものを、人の体が今は大きくなっているので、サイズ転換をしながら新しい服として生産をしています。

私達は“たつけ”というズボンを主力商品として作っているんですが、石徹白民謡という石徹白だけに伝わる踊りの舞台発表の衣装として使われています。

昔のたつけは脇が開いていて、紐で結ぶのでトイレに行くとき不便なので、ウエストをゴムにしてポケットを付け、ズボンとして扱えるようにしています。



はかまは、昔お坊さんが袈裟の上から履いて、雪に濡れないようにした雪ばかまをベースにして作ったもので、少しゆったりしているワイドパンツです。

何故私がたつけを作るようになったかという、とにかく作り方が素晴らしいです。石徹白でたつけを履いている人はいみせんですが、おばあさんが作り方を覚えていて、一緒に作った時に布に無駄がない裁断方法で、パズルを組み立てるような縫製で、少ない布で作業のしやすさを追求された、本当に和裁の集大成といえるのがたつけだと思いました。

洋裁はかなり無駄な部分が多く、アパレル業界でもシーズンごとに作られるものを廃棄してしまうというのがありますが、生産過程で出る廃棄物はものすごいです。私にとって洋服を作る事＝ゴミを作る事と一緒に感じた時に、たつけに出会って感動したという感じです。

藍染めをしていて工房の前には藍畑があり、秋口になると花が咲きます。築140年の家に私達は住んでいて、玄関が元々馬小屋だったんですが、その所をギャラリーにして、古い服や色々な事を紹介する場所になっています。

5月の頭から9月末まで石徹白洋品店は営業してまして、冬は道が危ないのでクローズしています。藍染めをしていると申し上げましたが、草木染もしています。栗のイガを拾って煮だして布を染めています。藍染めは、2902のカメが4つあり、夏は藍染めをしています。

私のスタンスとしては、石徹白で教えていただいた事を受け取って、それに今の時代だからこそ必要な想像を加えて次の世代に伝えていくという形で服作りをしています。私のベースは聞き書きなので、お年寄りからお話を聞く、石油文明が入ってくる前の石徹白の時代の事を知っている80代以上の方のお話はとても貴重なので、それを聞いていく活動を今も続けています。

聞き書きからお年寄りから教えてもらった物を基に絵本も作ってまして、石徹白民謡が沢山残っていますが、今は核家族が増えてきて中々伝わらなくなっているので、絵本を作って子供たちに伝えて地域の誇りを感じてもらおうという活動もしています。

私達は服の作り方を公開しています。普通アパレルのブランドは社外秘ですが、私たちはどうやって作っているのか、お婆さんから教えてもらったものにアレンジを加えたものを作って、それを基にワークショップ

プを行っています。冬は2月3月にコミュニティバスを使って乗り継いできてもらって石徹白まで来てもらいます。ワークショップを冬に3、4回、定員は6名で大規模ではないですが毎回満席です。皆さん二泊三日でたつかけを一本完成させています。遠い所で昨年は沖縄や北海道から来てくださいます。

いま私たちが働いているメンバーは総勢10名で、正社員は2人、アルバイトが3人、インターン生と役員が2人です。

私がとても影響を受けた方をご紹介します。森本喜久男さんという方で、カンボジアで内戦でなくなってしまった絹織物をカンボジアの人たちと一緒に復活させるNPOクメール伝統織物研究所というものをやっている人です。私は学生時代にカンボジアに通って文化人類学のフィールドワークをしていました。この方は地雷が埋まっているような荒野から地雷を取り出す所からやって、そこに内戦でも作られなくなった織物を作るためのお蚕を育てる、お蚕さんを育てるための桑の木を育てる、染める為の材料の木を植える所からやっていた人です。数年前に病気で亡くなりましたが、彼がやってきた織物の村は今でもあって、日本人の女性が1人カンボジアの人が100人ほど住んで今でも織物を作っています。その方が行っていたことは、「身近なもので身近な仲間と物を作る、それが幸せにつながるんだよ」と言って、今はSNSが発達してIT技術も最先端で外から何でも買えるし、何でもできますが、そうではなくてその土地にあるもの、伝統を使って、その人たちと顔を合わせながらやっていく事が大事だという風におっしゃっていました。私たちの世代はパソコン1台が当たり前の時代ですが、そうではない幸せを教えて下さった方だと思っています。私もそのことを大切にしています。

洪沢寿一さんは洪沢栄一さんのひ孫にあたる人ですが、石徹白洋品店の株主さんにもなって下さっている方です。この方が言っているのは「明日命が奪われるとか、食べられないかもしれないなどという事を考える必要がない日本人は豊かで恵まれている。しかも縄文時代から続く暮らし方を知っている。私たちは日本人として実践を通じて世界に示していかなければならないことがある。」とおっしゃっています。この方は海外の農業支援をされていた方で、海外に行くたびに、日本人は本当に恵まれているねと言われていたそうです。縄文時代からサステナブルな日本の社会を見直して、今は日本の各地の地域作りの支援という事で、日本を回っている方です。

私は石徹白が好きなのですが、石徹白は縄文集落と言いますか、そこから続く歴史や信仰を持っている場所で、その場所で生きてきた人たちの中にサステナブルな社会があるのではないかと考えていて、それを洪沢さんの話を聞いてより実感をしています。

石徹白すみゑさんは26歳の時に何も無い所から縫製工場を始めた方で、今は80歳になられますが、まだ元気で縫製工場をされています。この方は「うちにあるもんなら、何でも使って」といつも頼らせていただいている方です。地元の人で頑張っていらっしゃる方に、私もすごく影響を受けて自分も頑張ろう、という気持ちになって日々を過ごしています。

石徹白は移住者が増えているんですが、モデル撮影を石徹白の風景の中で年に何回かしていますが、地元の仲間たちにモデルになってもらうことで、石徹白の地域を示すビジュアルになるかなと思っています。

今、英国のウィリアムモリスギャラリーで「たつかけ」と「越前シャツ」の展示をしております。3月から9月までの長い展示ですが、民藝というタイトルで、日本の物作りの人の紹介をしまして、そこに取り上げていただきました。民藝を説明すると長くなりますが、私たちは民芸品を作っているわけではなくアパレルなのですが、日本の土地の風土や歴史、自然の中から物を生み出しているエココンシャスブランドとして取り上げていただいています。8月末にイベントをさせていただこうと思っています。

今度宿を始めようと思ひまして、それに向けて準備をしているところです。築何年か分からないですが、屋根が折れてしまった家を譲っていただき、宿をしたいなと思っています。私達は服の形を昔の精神的に秀でた服の価値を現代によみがえらせていますが、家の形や間取り、建築方法もすごく意味があると思っています。色んな学びがあると思っています。石徹白の古い家も中々見られないので、見られる場所を作りたいと思っています。

石徹白洋品店の目指す未来というのが3つあり、

「たつかけを世界へ。土から始まるものづくり。幸せに暮らし、働ける場を。」という3つがあります。たつ



けを世界には、日本の和裁の技術の集大成だと言えるたつかけの形や、その背景にある思想を世界に広めていく事が大事なことだと思っています。

土から始まる服づくりは、私達は周りの植物を使って染めているんですが、服は土からできるんです。綿は畑、シルクは蚕が桑の葉を食べることからできますし、しかし今は服が土からできているとは想像できないくらい沢山安く売られていて、それは異常な事だと思っています。畑で栽培されているもので服が出来る事が分かる場所を作っていかなければ、これから続いて行かない未来になってしまうと思っているので、それが分かる場所を作っていきたいと思っています。

幸せに暮らし、働ける場を作りたいという事で、仕事は街に行かなければ仕事がないといけないわけではなく、石徹白はへき地と言われるような場所ですが、自然に囲まれながら、自然の中にとインスピレーションが沸き、物作りに私はいいと思っています。クリエイティブな仕事が出来るという事を見せていきたい。都心に集中している人口を分散していける、それこそが私たちが生きるために水は必要ですが、水源の保全や、森林の保全、伝統的な暮らし方というのをきちんと繋いでいく事になるかなと思っています、まだまだ小規模ですが働く場所を作っていきたいと思っています。

石徹白みたいな地域の魅力を発信し続ける事、石徹白を訪れるきっかけを作る事、私たちが出来ることを常に模索して実践していくことを繰り返していきたいなと思っています。

私の大まかなゴールは、これからも石徹白が続いていく為に出来ることとして服作りだけでなく宿もやりたいと思っています。

ここで育つ子供たちがいつかここに戻ってきたいと思った時、戻ってこられる地域が出来ているかもしれないと思っています。先人も繰り返してきたことだと思いますので、繰り返しこそがこの地域がこれからも続いていく為に大切なことだと思っています。

私がこうして家から出てお話をさせていただけるのは、家族の協力があってこそで、家族のみんなと一緒に力を合わせながら毎日生きているという日々でございます。これで終わりたいと思います。ありがとうございます。

ニコBOX

ニコBOX委員会 鷲見啓児君

松森正和君 平野様、ようこそ。卓話、大変楽しみにしております。

寺田澄男君 平野さん、ようこそ我がクラブへ。歓迎致します。色々なお話お聞かせください。

藤代昇君 平野様、本日卓話ご苦労様です。卓話楽しみに聞かせて頂きます。中日新聞に大きく出ていましたね。

美谷添生君 先週の絵文字は無意識の発信でした。何の意味もございません、失礼しました。平野さん、本日卓話ありがとうございます。楽しみです。

畑中知昭君 平野さんようこそ。平野さんの世界観の話、楽しみです。

島崎秀樹君 最近暑いんだか寒いんだか。体調を崩さないように気を付けたいものです。

鷲見啓児君 平野様よろしくお願ひします。田植え終わりました。今はきれいな田んぼですが…。後が怖いです。

吉村泰彦君 恥ずかしながら、せっかくなので皆さんに告知させて下さい。私の高1の娘が今週25日(土) 11:00~11:30の名古屋テレビの夢の1DAYパスという番組に出演します。世代を問わず、夢の職業体験をするという番組で、私の娘は小さい頃からお菓子が大好きで、駄菓子の開発をするという夢を叶える内容となっています。番組では、あのブラックサンダーの新しい味の開発をしています。完成品は本部に提案されるとの事で、もしかしたら販売されるかも…。

佐藤備子君 平野さんのお話をとても楽しみにしてきました。よろしくお願ひします。

同文 大村太郎君、和田良一君、小島正則君、山下誠君、石徹白秀也君、原義明君、山口里美君、旭美香君、麦島洋介君、井俣愛美君、清水英志君、杉山賢君、奥村照彦君

次週行事予定

6月 2日	水質調査(長滝)	6月12日	ガバナー補佐訪問・次期概要説明
6月 5日	早朝例会(正法寺)	6月19日	最終例会

出席報告

出席委員会 石徹白秀也君

	会員数	出席者数	欠席者数	補正者数	出席率	出席免除
第2151回	34名	23名	7名	3名	78.79%	1名
第2152回	34名	24名	9名		70.59%	1名